

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |        |      |          |                                                                           |   |      |                   |      |    |  |
|-------|--------|------|----------|---------------------------------------------------------------------------|---|------|-------------------|------|----|--|
| 科目コード | 20305  |      | 区 分      | 専門基礎科目                                                                    |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |  |
| 授業科目名 | 次世代教育学 |      | 担当者名     | 畠中要輔/中安 翼/大野呂浩志<br>小川智勢子/羽田あずさ/渡邊 亮<br>竹下厚志/伊藤仁美/小澤尚子<br>中家 淳悟            |   |      | ○                 |      |    |  |
|       |        |      | 実務経験との関連 | 担当者の中でアナウンサー、特別支援学校教員、小学校教員、高等学校教員、舞台俳優としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。 |   |      |                   |      |    |  |
| 配当年次  | 1      | 配当学期 | 通年       | 単位数                                                                       | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 必修 |  |

## <授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。また教育だけでなく、様々な分野の「次世代」に取り組む方々からヒントをもらい、次世代の教育について考察し、授業作りに落とし込みます。

## <授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目的とします。

## <授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。  
※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

## <教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ           | 授 業 内 容                |
|----|---------------|------------------------|
| 1  | 次世代教育学で学ぶ事    | 授業の概要について              |
| 2  | 次世代教育を考える 1   | 現代の教育に必要な事とは何か考える      |
| 3  | 次世代教育を考える 2   | 考えた内容を発表               |
| 4  | 次世代教育を考える 3   | 自分たちの体験してきていない学校を見てみよう |
| 5  | 次世代教育を考える 4   | 学んだことを振り返り、ディスカッション    |
| 6  | 次世代教育を考える 5   | 発表                     |
| 7  | 次世代について学ぶ 1   | 講話                     |
| 8  | 次世代について学ぶ 2   | ディスカッション               |
| 9  | 次世代について学ぶ 3   | 講話                     |
| 10 | 次世代について学ぶ 4   | ディスカッション               |
| 11 | 次世代について学ぶ 5   | 発表                     |
| 12 | 次世代について学ぶ 6   | 講話                     |
| 13 | 次世代について学ぶ 7   | ディスカッション               |
| 14 | 次世代について学ぶ 8   | 発表                     |
| 15 | スクールフェスについて 1 | 発表                     |
| 16 | スクールフェスについて 2 | 授業を考える                 |
| 17 | スクールフェスについて 3 | 学習指導案作り                |
| 18 | スクールフェスについて 4 | プレゼンテーション              |
| 19 | スクールフェスについて 5 | 模擬授業 1                 |
| 20 | スクールフェスについて 6 | 模擬授業 2                 |
| 21 | スクールフェスについて 7 | スクールフェス実施              |
| 22 | まとめ           | スクールフェス、授業の振り返り、まとめ    |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |                 |      |          |                                       |     |      |                   |      |    |
|-------|-----------------|------|----------|---------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 24104           |      | 区 分      | 専門基礎科目                                |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 異文化コミュニケーション論   |      | 担当者名     | 羽田 あずさ                                |     |      | ○                 |      |    |
|       |                 |      | 実務経験との関連 | 小学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 前期       | 単位数                                   | 2単位 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えています。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します。

## <授業の到達目標>

- ① 異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。
- ② 相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付ける。
- ③ 自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界（特に英語圏）の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。
- ④

## <授業の方法>

- (1) 講義（教員による解説と問いの提示）
- (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）
- (3) ディスカッション（問いに対する回答）
- (4) 省察活動（まとめと発表）

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、 まとめテスト 20%

## <教科書>

原沢伊都夫（2013）「異文化理解入門」研究社

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ           | 授 業 内 容                                                     |
|----|---------------|-------------------------------------------------------------|
| 1  | イントロダクション     | 授業の進め方と異文化理解の意義について考える。                                     |
| 2  | 文化とは①         | 文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。                                     |
| 3  | 文化とは②         | 私たちが属している文化に気づき、そこから異文化とは何か考える。                             |
| 4  | 異文化適応①        | 私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。                  |
| 5  | 異文化適応②        | ゲームを行い、異文化に接触したときの疑似体験をする。その体験から感じたことを話し合う。                 |
| 6  | 視点を変える        | いくつかの活動を通じて、視点を変える練習をする。                                    |
| 7  | ステレオタイプ       | 自分が持っている固定観念に気付く活動を行う。また、固定観念を持つ理由を学ぶ。                      |
| 8  | 差別と異文化理解      | 映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。                                  |
| 9  | 世界の価値観        | 様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。                  |
| 10 | 異文化トレーニング     | 異文化を理解するトレーニングを1つ体験し、異文化理解の方法を知る。                           |
| 11 | 異文化受容         | 異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。                            |
| 12 | 自分を知る         | 自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。                 |
| 13 | 非言語コミュニケーション  | 非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非言語コミュニケーションをしているか内省する。 |
| 14 | コミュニケーションスタイル | 自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。             |
| 15 | まとめ           | 多文化共生社会に参画するために、異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるとは。                  |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |           |      |          |                                                                |   |      |                   |      |    |
|-------|-----------|------|----------|----------------------------------------------------------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 65020     |      | 区 分      | 専門基礎                                                           |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 実践英文法（基礎） |      | 担当者名     | 井上 聡                                                           |   |      | ○                 |      |    |
|       |           |      | 実務経験との関連 | 民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |   |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 1         | 配当学期 | 前期       | 単位数                                                            | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。事前課題（整序問題）をもとにグループ教え合いを行い、解説を傾聴後、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生にとっても、副専攻とする学生にとっても、アクティブ・ラーニングの醍醐味を体験できる貴重な機会となるでしょう。

## <授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。
2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。
3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

## <授業の方法>

事前課題の教え合い（50分）

解説の傾聴（30分）

意見交換（10分）

※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%，グループワーク 20%，理解度確認テスト 40%，意見交換 10%

## <教科書>

特になし

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ             | 授 業 内 容             |
|----|-----------------|---------------------|
| 1  | オリエンテーション、品詞解析① | 授業の進め方、教材の使い方、品詞解析① |
| 2  | 品詞解析②           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 3  | 品詞解析③           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 4  | 品詞解析④           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 5  | 品詞解析⑤           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 6  | 品詞解析⑥           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 7  | 品詞解析⑦           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 8  | 品詞解析⑧           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 9  | 品詞解析⑨           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 10 | 品詞解析⑩           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 11 | 品詞解析⑪           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 12 | 品詞解析⑫           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 13 | 品詞解析⑬           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 14 | 品詞解析⑭           | 教え合い、解説、振り返り        |
| 15 | 品詞解析⑮           | 教え合い、解説、振り返り        |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |           |      |          |                                                                |   |      |                   |      |    |
|-------|-----------|------|----------|----------------------------------------------------------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 65021     |      | 区 分      | 専門基礎科目                                                         |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 実践英文法（応用） |      | 担当者名     | 井上 聡                                                           |   |      | ○                 |      |    |
|       |           |      | 実務経験との関連 | 民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |   |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 1         | 配当学期 | 後期       | 単位数                                                            | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業は、実践英文法（基礎）のステップ講座であり、前期授業内容（整序問題演習）の発展編となります。協働学習を通して、さらに難度の高い英文の解析力と他者への説明力を養います。成績評価は、事前課題（演習課題の出来栄え）、協働学習への態度、理解度確認テスト、意見交換の質を軸に行います。この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参して臨んでください。高等学校で英語指導を行うためのスキルを養う絶好の機会となるでしょう。

## <授業の到達目標>

1. 事前課題（整序問題演習）に粘り強く取り組み、詳細なノートを作成・提出できる。
2. 協働学習で教え合いを行い、難度の高い構文解析を説明できる。
3. 理解度確認テストを受験し、高い理解度を残すことができる。
4. 意見交換の場で、自身の学びを適切に言語化できる。

## <授業の方法>

教え合い（50分程度）

解説の傾聴（30分程度）

意見交換（10分）

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 40%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

## <教科書>

特になし

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ            | 授 業 内 容                  |
|----|----------------|--------------------------|
| 1  | オリエンテーション、品詞解析 | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 2  | 動詞の語法①         | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 3  | 動詞の語法②         | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 4  | 動詞の語法③         | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 5  | 動詞の語法④         | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 6  | 動詞の語法⑤         | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 7  | 前置詞・接続詞①       | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 8  | 前置詞・接続詞②       | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 9  | 関係詞①           | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 10 | 関係詞②           | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 11 | 名詞・代名詞         | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 12 | 形容詞・副詞         | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 13 | 総合演習①          | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 14 | 総合演習②          | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |
| 15 | 総合演習③          | グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |                            |      |          |                                                                |     |      |                   |      |    |
|-------|----------------------------|------|----------|----------------------------------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 65022                      |      | 区 分      | 専門基礎科目                                                         |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | リーディング・スキル（基礎） [英語教員希望者限定] |      | 担当者名     | 井上 聡                                                           |     |      | ○                 |      |    |
|       |                            |      | 実務経験との関連 | 民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 1年                         | 配当学期 | 後期       | 単位数                                                            | 2単位 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検2級レベルで、英文の速読・精読力と語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題に取り組み、課題の提出・採点・返却後に理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

## <授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検2級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。
2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。
3. 事前課題と理解度確認テストを通して得た学びを「意見交換」の場で言語化できる。

※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

## <授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業日の前日
2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ
3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

## <教科書>

特に指定なし

## <参考書>

特に指定なし

## <授業計画>

| 回  | テーマ                            | 授 業 内 容                |
|----|--------------------------------|------------------------|
| 1  | Generations Helping Each Other | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 2  | Metal Foam                     | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 3  | A New Type of Chocolate        | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 4  | A New Way to Use a Computer    | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 5  | Review 1                       | Review Test_01実力テスト_01 |
| 6  | The Price of a Song            | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 7  | A Model Tourist Town           | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 8  | The Mysterious Mummies         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 9  | Female Pioneers                | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 10 | Review 2                       | Review Test_02実力テスト_02 |
| 11 | Counting Every Children        | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 12 | Smart Stickers                 | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 13 | Bibliotherapy                  | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 14 | Bringing Back Ancient Plants   | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 15 | Review 3                       | Review Test_03実力テスト_03 |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|           |                 |      |              |                                       |     |      |                   |      |    |
|-----------|-----------------|------|--------------|---------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード     | 24201           |      | 区 分          | 専門基礎                                  |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業<br>科目名 | 比較文化論           |      | 担当者名         | 羽田 あずさ                                |     |      | ○                 |      |    |
|           |                 |      | 実務経験<br>との関連 | 小学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次      | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 前期           | 単位数                                   | 2単位 | 授業方法 | 講義・<br>演習         | 卒業要件 | なし |

## <授業の概要>

異文化理解入門です。私たちは “様々な文化”の中で生活しています。その文化とはいったいどのようなことを指すのかについて、私たちの日常生活から改めて見つめていきます。そして、異文化は自分（たち）の文化とどのように違うのかについて理解を深め、皆さんが “地球市民”として生きていくために必要なことを一緒に考えていきたいと思います。

## <授業の到達目標>

- ・文化とは何を指すのかについて理解している。
- ・自分に影響を与える（与えてきた）文化とは何かについて理解している。
- ・他者に影響を与えている（与えてきた）と思われる文化について多面的に理解している。
- ・異文化適応に必要な方略を身につけている。

## <授業の方法>

一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度 30% レポート等の課題 30% 発表 40%

## <教科書>

特になし

## <参考書>

八代京子 町恵理子 小池浩子 吉田友子（2022年4月20日）「異文化トレーニング」三修社  
原沢 伊都夫（2021年12月10日）「異文化理解入門」研究社

## <授業計画>

| 回  | テーマ                | 授 業 内 容                          |
|----|--------------------|----------------------------------|
| 1  | オリエンテーション          | 自己紹介、外国人とのかかわり、日本文化、他国のイメージ      |
| 2  | 多文化と日本文化の比較分析（発表）① | 衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。 |
| 3  | 多文化と日本文化の比較分析（発表）② | 衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。 |
| 4  | 異文化コミュニケーション①      | 私の文化ーあなたの文化                      |
| 5  | 異文化コミュニケーション②      | 見える文化ー見えない文化、パラダイムシフトー交渉トレーニング   |
| 6  | コミュニケーション①         | 内容面と関係面、非言語コミュニケーション             |
| 7  | コミュニケーション②         | 低コンテクストー高コンテクスト、自己開示ー相互コミュニケーション |
| 8  | 見えない文化①            | 価値観、集団主義ー個人主義                    |
| 9  | 見えない文化②            | 権力格差、差別意識                        |
| 10 | 異なる文化のとらえ方①        | ステレオタイプ、カテゴリー化、差別意識              |
| 11 | 異なる文化のとらえ方②        | 自文化中心主義ー文化相対主義                   |
| 12 | 演習                 | 異文化適応トレーニング                      |
| 13 | スピーチまたはプレゼンテーション①  | これからの「私の文化」                      |
| 14 | スピーチまたはプレゼンテーション②  | これからの「私の文化」                      |
| 15 | リフレクション            | 振り返りレポート                         |

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |       |      |          |                                                                |   |      |                   |      |    |
|-------|-------|------|----------|----------------------------------------------------------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 24200 |      | 区 分      | 専門基礎科目                                                         |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 英語文法  |      | 担当者名     | 井上 聡                                                           |   |      | ○                 |      |    |
|       |       |      | 実務経験との関連 | 民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |   |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 2     | 配当学期 | 前期       | 単位数                                                            | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

本授業の目的は、英文法について高校入試や大学入試レベルでの理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための素地を構築することです。指導範囲・内容・レベルが広範かつ高度であるため、オリジナル教材とデジタル解説教材を用い、オンデマンド形式で実施します。課題提出、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、しっかり時間管理を行い、個人差を解消しましょう。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業は中高英語教員免許取得のための必修科目ですので、教職課程を履修していない学生による他学科履修についてはお断りさせて頂く予定です。

<授業の到達目標>

- 1. 長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。
- 2. 理解度確認テストで高得点を残すことができる。
- 3. 授業後の意見交換において「学びの振り返り」ができる。

<授業の方法>

- 1. 例題・類題演習の提出（90分程度）
  - 2. 採点・返却
  - 3. 提出課題の修正（1時間程度）
  - 4. 理解度確認テスト（30分程度）
  - 5. 意見交換（10分）
- ※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月3日）「これからの英語教師のための深くて苦い英語文法」一粒社

<参考書>

特になし

<授業計画>

| 回  | テーマ                | 授 業 内 容                            |
|----|--------------------|------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション、シミュレーション | 授業の進め方、課題提出の方法など                   |
| 2  | 英文の構造              | 自動詞と他動詞、修飾語と付加詞、補語と目的語、OOとOC、文型の判別 |
| 3  | 語順と意味              | 前置詞と動詞、第4文型から第3文型に、文末焦点            |
| 4  | 基本時制               | 時制の一致、未来を表す表現、いろいろな未来、名詞節と副詞節      |
| 5  | 完了時制               | ニュアンス、用法の判別、完了を表すキーワード、複合問題        |
| 6  | 法助動詞               | ニュアンス、種類、丁寧な用言、書き換え、be to、慣用表現     |
| 7  | 仮定法                | 時制、反実仮想、倒置、様々な構文                   |
| 8  | 文末焦点と態             | 文体の自然性、態の変換、特殊な変換、前置詞の使い方          |
| 9  | 不定詞                | 用法、時制、不定詞と動名詞、原形不定詞、特殊な構文          |
| 10 | 動名詞                | 時制を意識した書き換え、形態、語順、慣用表現             |
| 11 | 分詞                 | 前置就職と後置修飾、形態、感情動詞、付帯状況、補語、分詞構文     |
| 12 | 比較                 | 強調、様々な構文、書き換え                      |
| 13 | 関係代名詞              | 情報量、格、制限用法と非制限用法、特殊な用法             |
| 14 | 関係副詞               | 関係代名詞との違い、関係副詞の成り立ち、特殊な用法、複合関係詞    |
| 15 | 接続詞と前置詞            | 等位接続詞と接続副詞、従位接続詞、前置詞のニュアンス         |
| 16 | 期末試験               |                                    |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |                            |      |          |                                                                |     |      |                   |      |    |
|-------|----------------------------|------|----------|----------------------------------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 65023                      |      | 区 分      | 専門基礎科目                                                         |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | リーディング・スキル（応用） [英語教員希望者限定] |      | 担当者名     | 井上 聡                                                           |     |      | ○                 |      |    |
|       |                            |      | 実務経験との関連 | 民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 2年                         | 配当学期 | 後期       | 単位数                                                            | 2単位 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準1級レベルの英文の速読・精読力に加え、同レベルの語彙・構文解析力を強化します。事前課題（読解・語彙・文法のノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

## <授業の到達目標>

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（長文読解）に粘り強く取り組むことができる。
2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。
3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。

※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

## <授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで
2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ
3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

## <教科書>

特に指定なし

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ                                 | 授 業 内 容                |
|----|-------------------------------------|------------------------|
| 1  | "Drink Responsibly" Messages        | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 2  | Dog Colors                          | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 3  | Lightning Strikes and Ships         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 4  | Minimalism: Is Less Really More?    | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 5  | Review 1                            | Review Test_01実力テスト_01 |
| 6  | The Thaba-Tseka Development Project | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 7  | The Uncertainties of Celiac Disease | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 8  | REDD+                               | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 9  | Summer Jobs                         | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 10 | Review 2                            | Review Test_02実力テスト_02 |
| 11 | Stranded Whales                     | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 12 | Airplanes and Germs                 | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 13 | Young People and Sports             | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 14 | Medical Voluntourism                | 事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換     |
| 15 | Review 3                            | Review Test_03実力テスト_03 |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |                   |      |          |                                                                |     |      |                   |      |    |
|-------|-------------------|------|----------|----------------------------------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 24303             |      | 区 分      | 専門基礎科目                                                         |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 上級英語文法〔英語教員希望者限定〕 |      | 担当者名     | 井上 聡                                                           |     |      | ○                 |      |    |
|       |                   |      | 実務経験との関連 | 民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 3年                | 配当学期 | 前期       | 単位数                                                            | 2単位 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。

## <授業の到達目標>

1. 事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。
2. 理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。
3. 意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

## <授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）
2. 採点・返却
3. 理解度家訓テスト（30分程度）
4. 意見交換（5分）

※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

## <教科書>

井上聡（2022年4月）「上級英語文法：攻略ポイント210」一粒書房

※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ               | 授 業 内 容                         |
|----|-------------------|---------------------------------|
| 1  | オリエンテーション         | シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方） |
| 2  | 動詞の語法①            | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 3  | 動詞の語法②            | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 4  | 動詞の時制             | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 5  | 法助動詞              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 6  | 態の変換              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 7  | 不定詞①              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 8  | 不定詞②              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 9  | 分詞                | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 10 | 動名詞               | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 11 | 関係詞①              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 12 | 関係詞②              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 13 | 仮定法               | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 14 | 比較表現①             | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 15 | 比較表現②             | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 16 | 名詞の語法             | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 17 | 代名詞の語法            | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 18 | 形容詞の語法            | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 19 | 副詞の語法             | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 20 | 接続詞①              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 21 | 接続詞②              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 22 | 前置詞①              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 23 | 前置詞②              | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 24 | 疑問・否定・倒置・強調・一致まとめ | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 25 | 総復習               | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |
| 26 | 期末試験・まとめ          | 例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換            |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |            |      |          |                                                |   |      |                   |      |    |
|-------|------------|------|----------|------------------------------------------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 31400      |      | 区 分      | コア科目                                           |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 学校経営と学校図書館 |      | 担当者名     | 浅田 栄里子                                         |   |      | ○                 |      |    |
|       |            |      | 実務経験との関連 | 高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |   |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 4          | 配当学期 | 後期       | 単位数                                            | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

## <授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

## <授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、レポート・グループ課題 40%、特別課題 30%に基づき総合的に評価する。

## <教科書>

特になし

## <参考書>

「探究 学校図書館学」編集委員会 編著（2022年1月20日第2刷発行）

探究 学校図書館学第1巻「学校経営と学校図書館」

公益社団法人全国学校図書館協議会

## <授業計画>

| 回  | テーマ               | 授 業 内 容                                    |
|----|-------------------|--------------------------------------------|
| 1  | ガイダンス・学校教育法令と学校経営 | 授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。 |
| 2  | 教育法令と学校図書館        | 学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。             |
| 3  | 学校図書館と学習指導要領      | 学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。     |
| 4  | 学校図書館の機能と図書標準     | 学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。    |
| 5  | 学校図書館の運営          | 学校図書館運営に関わる業務を理解する。                        |
| 6  | 学校図書館の運営          | 学校図書館運営計画を作成する①                            |
| 7  | 学校図書館の運営          | 学校図書館運営計画を作成する②                            |
| 8  | 学校図書館の運営          | 学校図書館運営計画を作成する③                            |
| 9  | 学校図書館の運営          | 図書館だよりを作成する①                               |
| 10 | 学校図書館の運営          | 図書館だよりを作成する②                               |
| 11 | 学校図書館の運営          | 図書館だよりを作成する③                               |
| 12 | 学校図書館の運営          | 学校図書館展示の工夫①                                |
| 13 | 学校図書館の運営          | 学校図書館展示の工夫②                                |
| 14 | 学校図書館の運営          | 学校図書館展示の工夫③                                |
| 15 | まとめ               | 学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。     |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |              |      |          |                                                        |     |      |                   |      |    |
|-------|--------------|------|----------|--------------------------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 31401        |      | 区 分      | コア科目                                                   |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 学校図書館メディアの構成 |      | 担当者名     | 木戸 和彦／浅田 栄里子                                           |     |      | ○                 |      |    |
|       |              |      | 実務経験との関連 | 担当者の中で高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 4年           | 配当学期 | 前期       | 単位数                                                    | 2単位 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

## <授業の到達目標>

- ① 学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。
- ② 校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。
- ③ 学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

## <授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

## <教科書>

特になし

## <参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）「学校図書館必携」悠光堂

## <授業計画>

| 回  | テーマ             | 授 業 内 容                         |
|----|-----------------|---------------------------------|
| 1  | 学校図書館メディアの意義    | 講義ガイダンスを含む                      |
| 2  | 学校図書館メディアについて   | 学校図書館メディアの種類と特性                 |
| 3  | 学校図書館メディアについて   | 学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針） |
| 4  | 学校図書館メディアについて   | 学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）     |
| 5  | メディアコレクションの形成   | 蔵書構築、蔵書評価について                   |
| 6  | 学校図書館の責務について    | 学校図書館の役割について                    |
| 7  | 学校図書館メディアの組織化   | 分類の意義と機能                        |
| 8  | 学校図書館メディアの組織化   | 日本十進分類法について                     |
| 9  | 学校図書館メディアの組織化   | 件名標目表について                       |
| 10 | 学校図書館メディアの組織化   | 日本目録規則について                      |
| 11 | 学校図書館メディアの組織化   | 目録の機械化について                      |
| 12 | 学校図書館メディアの組織化   | 分類と件名作業の実際                      |
| 13 | 多様な学習環境とメディアの配置 | 学校図書館メディアの配置の意義                 |
| 14 | 多様な学習環境とメディアの配置 | 学校図書館メディアの配置の演習                 |
| 15 | まとめ・確認テスト       | 学校図書館メディアの構成の展望                 |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |           |      |          |                                                  |   |      |                   |      |    |
|-------|-----------|------|----------|--------------------------------------------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 31403     |      | 区 分      | コア科目                                             |   |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 読書と豊かな人間性 |      | 担当者名     | 浅田 栄里子                                           |   |      | ○                 |      |    |
|       |           |      | 実務経験との関連 | 高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。 |   |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 4         | 配当学期 | 後期       | 単位数                                              | 2 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

## <授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。
2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。
3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

## <授業の方法>

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30%、レポート・グループ課題40%、特別課題30%により総合的に評価する。

## <教科書>

「探究 学校図書館学」編集委員会  
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」  
全国学校図書館協議会

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ                   | 授 業 内 容                                        |
|----|-----------------------|------------------------------------------------|
| 1  | 授業ガイダンス               | 講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。               |
| 2  | 読書教育の系譜               | 日本の読書教育の変遷を理解する。                               |
| 3  | 読書指導と学校図書館            | 学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。           |
| 4  | 子どもの読書環境              | 子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。             |
| 5  | 発達段階に応じた読書指導          | 読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。            |
| 6  | 子どもと本を結ぶための方法1        | 読み聞かせとブックトーク、ストーリーテリング                         |
| 7  | 子どもと本を結ぶための方法2        | 読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書                           |
| 8  | 子どもと本を結ぶための方法3        | 読書へのアニメーションとビブリオバトル                            |
| 9  | 子どもと本を結ぶための方法4        | 読書会とリテラチャーサークル                                 |
| 10 | 子どもと本を結ぶための方法5        | 紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成                       |
| 11 | 各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導 | 各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。                |
| 12 | 読書活動の実例1              | 小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。                  |
| 13 | 読書活動の実例2              | 高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。              |
| 14 | 読書活動の推進と司書教諭・学校司書     | 司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。                  |
| 15 | まとめ                   | 読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。 |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |            |      |          |                                         |     |      |                   |      |    |
|-------|------------|------|----------|-----------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 31402      |      | 区 分      | コア科目                                    |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 学習指導と学校図書館 |      | 担当者名     | 小川 智勢子                                  |     |      | ○                 |      |    |
|       |            |      | 実務経験との関連 | 小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 4年         | 配当学期 | 後期       | 単位数                                     | 2単位 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

## <授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

## <授業の方法>

教科書に基づき授業を進める。毎回課題を提示する。主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30％、レポート・課題30％、最終課題40％により総合的に評価する。

## <教科書>

特になし

## <参考書>

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25）  
 探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館  
 全国学校図書館協議会

文部科学省（2018/2/28）  
 小学校学習指導要領解説 総則編  
 東洋館出版社

## <授業計画>

| 回  | テーマ               | 授 業 内 容                             |
|----|-------------------|-------------------------------------|
| 1  | ガイダンス・学校教育と学校図書館  | 学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。           |
| 2  | 学び方の指導の実際1        | 学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。                |
| 3  | 学び方の指導の実際2        | 図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。                  |
| 4  | 学び方の指導の実際3        | 年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。             |
| 5  | 学び方の指導の実際4        | 新聞の活用の指導の仕方を理解する。                   |
| 6  | 学び方の指導の実際5        | インターネットの利用の指導の仕方を理解する。              |
| 7  | 学習指導に生きるブックトーク    | ブックトークのやり方とその効用について理解する。            |
| 8  | 学習指導に生きるポップ       | ポップの作成方法とその効用について理解する。              |
| 9  | 教科学習における学校図書館の活用1 | 国語科における学校図書館の活用について理解する。            |
| 10 | 教科学習における学校図書館の活用2 | 社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。         |
| 11 | 総合的な学習の時間と学校図書館   | 総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。      |
| 12 | 学校図書館と合理的配慮       | 学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。 |
| 13 | 司書教諭と学校図書館司書の役割   | 学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。 |
| 14 | これからの学校図書館の在り方    | 先進的な学校図書館の事例について理解する。               |
| 15 | 司書教諭が担う役割         | 学習指導と学校図書館における司書教諭が担う役割について理解する。    |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |               |      |          |                                                                |     |      |                   |      |    |
|-------|---------------|------|----------|----------------------------------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 21204         |      | 区 分      | 専門基礎科目                                                         |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 英語科教育法 I (基礎) |      | 担当者名     | 井上 聡                                                           |     |      | ○                 |      |    |
|       |               |      | 実務経験との関連 | 民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 2年            | 配当学期 | 前期       | 単位数                                                            | 2単位 | 授業方法 | 講義                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生を力強く支援します。

## <授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。
2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。
3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

## <授業の方法>

グループ討論（30分）

解説（30分）

プレゼンテーション（30分）

※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

## <教科書>

JACET教育問題研究会（2017年11月30日）「行動志向の英語科教育の基礎と実践—教師は成長する—」三修社

## <参考書>

特に指定なし

## <授業計画>

| 回  | テーマ               | 授 業 内 容                         |
|----|-------------------|---------------------------------|
| 1  | オリエンテーション         | シラバスの説明、シミュレーション（事前課題、グループワーク）  |
| 2  | 外国語教育の目的と意義       | 日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観         |
| 3  | 英語教育課程            | 教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性    |
| 4  | 第二言語習得と教授法        | SLA研究からの知見、教授法                  |
| 5  | 学習者論              | 言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者 |
| 6  | 英語教師論             | 教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長 |
| 7  | まとめ               | 復習テスト                           |
| 8  | リスニングリーディング       | 基本概念とリスニング指導基本概念とリーディング指導       |
| 9  | スピーキングライティング      | 基本概念とスピーキング指導基本概念とライティング指導      |
| 10 | 技能統合型の指導：インタラクション | 基本概念、協同学習                       |
| 11 | 文法指導語彙指導          | 基本概念と文法指導基本概念と語彙指導              |
| 12 | 文法指導語彙指導          | 基本概念と文法指導基本概念と語彙指導              |
| 13 | PPPF演習（1）         | 指導案の作成（概案）                      |
| 14 | PPPF演習（2）         | 指導案の作成（概案）                      |
| 15 | プレゼンテーション         | 私が目指す英語教師像                      |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |                     |      |          |                                                |     |      |                   |      |    |
|-------|---------------------|------|----------|------------------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 51010               |      | 区 分      | コア科目                                           |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 教育実習事前・事後指導(英語)《通年》 |      | 担当者名     | 竹下 厚志/伊藤 仁美<br>武 幸枝                            |     |      | ○                 |      |    |
|       |                     |      | 実務経験との関連 | 担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 3年                  | 配当学期 | 通年       | 単位数                                            | 1単位 | 授業方法 | 実習                | 卒業要件 | 選択 |

## <授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

## <授業の到達目標>

- ① 事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付ける。
- ② 事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立する。

## <授業の方法>

- (1) 講義（教員による解説と問いの提示）
- (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）
- (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）
- (4) 省察活動（まとめと発表）

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20 %、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30% （一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。）

## <教科書>

特になし

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ       | 授 業 内 容             |
|----|-----------|---------------------|
| 1  | 教育実習に臨んで  | 教育実習の目的、心構え、準備      |
| 2  | 授業観察      | DVD教材を利用した授業観察、授業分析 |
| 3  | 授業準備      | 教科書分析・指導案作成準備       |
| 4  | 指導案の作成（1） | 指導案作成の手順            |
| 5  | 指導案の作成（2） | 指導技術の工夫             |
| 6  | 模擬授業（1）   | 模擬授業を実施             |
| 7  | 模擬授業（2）   | 模擬授業を実施             |
| 8  | 模擬授業（3）   | 模擬授業を実施             |
| 9  | 模擬授業（4）   | 模擬授業を実施             |
| 10 | 事前指導のまとめ  | 事前指導で学んだ内容の確認       |
| 11 | 教育実習の報告①  | 実習報告とディスカッション       |
| 12 | 教育実習の報告②  | 実習報告とディスカッション       |
| 13 | 教育実習の報告③  | 実習報告とディスカッション       |
| 14 | 教育実習の報告④  | 実習報告とディスカッション       |
| 15 | 事後指導のまとめ  | 実習全体の振り返り           |

# 次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

|       |                       |      |          |                                                |     |      |                   |      |    |
|-------|-----------------------|------|----------|------------------------------------------------|-----|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 53012                 |      | 区 分      | コア科目                                           |     |      | 実務経験のある教員等による授業科目 |      |    |
| 授業科目名 | 教職実践演習(中学校・高等学校) [英語] |      | 担当者名     | 竹下 厚志/伊藤 仁美                                    |     |      | ○                 |      |    |
|       |                       |      | 実務経験との関連 | 担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。 |     |      |                   |      |    |
| 配当年次  | 4年                    | 配当学期 | 後期       | 単位数                                            | 2単位 | 授業方法 | 演習                | 卒業要件 | 必修 |

## <授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。より高度な実践力として概念化学習、教材作成、テスト作成に加え、海外交流も視野に入れた実践的コミュニケーション力の育成も同時に行います。

## <授業の到達目標>

- ① 英語力および授業力を高め自己研鑽をするなど『英語教師の成長』について考え見通しを立てることができる。
- ② 教育実習の経験を踏まえたうえで様々な教育課題を建設的に批判し、解決に向けての具体案を提示できる。
- ③ 海外交流に必要な英語力を身に着けることができる。

## <授業の方法>

- (1) 講義（教員による解説と問いの提示）
- (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）
- (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）
- (4) 省察活動（まとめと発表）

## <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②発表（模擬授業） 50%、③課題・レポート 30%

## <教科書>

特になし

## <参考書>

特になし

## <授業計画>

| 回  | テーマ        | 授 業 内 容                        |
|----|------------|--------------------------------|
| 1  | オリエンテーション  | 教職実践演習の目的、基本的な言語習得研究の確認、英語力の確認 |
| 2  | 単元のまとめ学習 1 | 各単元や年間のまとめ学習指導 1               |
| 3  | 単元のまとめ学習 2 | 各単元や年間のまとめ学習指導 2               |
| 4  | 概念化学習 1    | 教科書のテーマを概念化から再分析 1             |
| 5  | 概念化学習 2    | 教科書のテーマを概念化から再分析 2             |
| 6  | 教材作成       | テーマの概念化に基づき、教科書の応用としての教材開発     |
| 7  | 概念化学習発表    | 概念化に基づく授業づくりの発表                |
| 8  | 海外交流 1     | リサーチに基づく発表準備 1                 |
| 9  | 海外交流 2     | リサーチに基づく発表準備 2                 |
| 10 | 海外交流 3     | リサーチに基づく発表準備 3                 |
| 11 | テスト作成      | テスト作成発表準備                      |
| 12 | テスト作成発表 1  | 作成したテスト内容の発表 1                 |
| 13 | テスト作成発表 2  | 作成したテスト内容の発表 2                 |
| 14 | テスト作成発表 3  | 作成したテスト内容の発表 3                 |
| 15 | まとめ        | 全体の振り返り                        |